

第47回国公女性交流集会
6月10・11日 福島・飯坂温泉

全国の仲間と交流する

女性部 (T)

全国の国の機関で働く女性が集まりました。大学関係者は福島、富山、山口の方も参加しており交流できました。

記念講演は和光大学教授の竹信三恵子さんが「日本型ショックドクトリンと『働き方改革』」災害から見える女性の人権をめぐる課題」と題して行いました。

大震災で実際におきたことは、女性や外国人や障害者の要求、例えば着替えや授乳、トイレ、化粧品などの要求はひんしゆくをかい、わがままと捉えられたとのことでした。また、女性がもっと中心に関われば女性目線で行えたことがたくさんあった。



分科会では「食べ物の安全・安心ってどういうこと」に参加。助言者である農民連の方から、土井善晴さんの一汁一菜(ごはん、具沢山の味噌汁、漬物)のメリットを紹介されました。①身体にいい②日本の国土を守る③食品の口スをなくすということに加えて、食事を作らなければという思いから開放されて人生を楽しみましょうといった話がありました。若い女性が多く、元気をもらった集会でした。

第25回パート・派遣など非正規ではたらくなかまの
全国交流集会 in 静岡

労働組合の力を実感!

(高橋書記長)

5/31 市民シンポジウム

希望者は 誰でも無期雇用に

(編) N

東北大学の3000名を超える非正規職員の雇止めを考える市民シンポジウムが開かれました。会場のアエル29階の部屋には、入りきれない参加者125名(東北大:未組合を含む55名・県労連50名その他)であふれかえり、その熱気に力をもらった集会となりました。

シンポジストは、飛田博実東北大学職員組合執行委員長、長沼拓弁護士、道労連黒沢幸一議長、非正規職員の後藤洋子さんの4名です。

東北大学で、2018年4月1日以降、行おうとしている3200人の大量雇止めは、誰もが働き続けられる新しい労働契約法を無視した対応で、東北大学職員組合が現在必死に闘っていることは決して間違いではなく、広く国民に受け入れられる闘いであることをあらためて知った集会でした。

初めての参加。全体のリレートークで東大の現状を訴え、「使い捨て許さない! 労働組合に結集し無期転換させよう!」の分科会で交流してきました。

「貧困と格差にどう立ち向かうか」というテーマで記念講演した本田由紀氏は東京大学大学院教育学研究科教授。戦後の日本社会は「正社員や長期安定雇用が当たり前という時代、それなりに社会が「まわって」いた。さて現在、非正社員が主婦、パートや学生アルバイト以外に拡大、家族を養うだけの十分な賃金を得られず家族形成が難しい、形成できても次世代を担う子どもの教育に注ぐ資源に格差が生じる、その子どもは卒業後低賃金で不安定な仕事に就かざるを得ないなど、社会が「まわらなくなっている、政府はもともとながたセイフティネットを拡充するどころか切り下げてい、私たちはこのような状況の中で生きてい、大変すさまじい世の中になってしまった、それはなぜかを根底から考えて、原因を探し是正していかなければならない」と話されました。今の社会に怒り、早くなんとかしなければという先生の気持ちひしひしと伝わってきました。

分科会では、①3年しか働くことができない派遣労働者が労働組合に入って直接雇用になった、たった一人のために全員で取り組んでもらえた②雇止めといわれたので組合に相談し撤廃させることができた、これを機に役員も引き受け、無期雇用の件をわかりやすく知らせる組合員増につなげて行きたい③8年前から学習会等を重ね無期化の運動をして勝ち取ったなどの発言が続く、労働組合が果たしている役割を改めて確認できました。